

貨物会社回答！「1.73箇所月分、7月7日支払い」 相次ぐ物価高騰を前に社員の生活実態は悪化の一途である！



経営陣は社員・家族の期待に応える責務がある！ 「物価上昇分は賃上げで」「業績は期末手当で」との交渉経緯を守るべきだ！

2024決算は前年度決算との比較でも大幅に改善している！今こそ社員に還元すべき！

6月12日、本部は2025年度「夏季手当」についての回答を貨物会社から受けた。

席上本部は、「24年度決算は、回復へと転じている中で、貨物では設備投資を含め営業費用が増加しており、結果として経営を圧迫している。物価高騰が家計を直撃する中、昨年度から経営状況は大幅に改善している。これは社員の努力によるものであり、この努力に何ら報いることなく、経営課題を最優先する姿勢は社員に犠牲を強いるものでしかない」として、①経営課題を前面に低額回答ありきの全く誠意の見られないものでしかない。②厳しい経営状況である中においても、設備投資は計画通り進めるとしていることから、社員に対しても誠意ある回答で応え、日々の労苦に報い、将来展望を示すことが求められている。③環境問題をはじめ、「24問題」や「物流革新緊急パッケージ」などこれまでにはない貨物鉄道輸送への追い風の中で「指定公共機関」の使命として安全輸送に努力する社員感情を逆撫でするものでしかない。④期末手当は大事な「生活給」であり、社員の生活に責任を持つのが会社の責務である。⑤これまで国労が指摘し続けている分割民営化からの構造矛盾を放置し、数々の根幹問題を先送りした、社員犠牲の経営を続けている経営陣の責任は重大である。と厳重に抗議を行った。

これに対し、会社は、「貴組合の指摘は受け止めるが、会社として最終判断した中身であり、最終回答である」との見解に終始した。

最後に本部は、「本日の夏季手当の低額回答は、社員と家族の生活実態を全く無視した一方的な姿勢であり、到底認められるものではなく極めて不満に回答である」と重ねて抗議し、取り扱いついては「持ち帰り」とした。

経営陣はこれまでの社員犠牲の姿勢を改め、 社員の生活を最優先に考えるべきである！



経営課題を理由とする低額回答に抗議！
社員の生活最優先の夏季手当の支払いを！

「低額回答」に対して抗議と要請行動を！
※6月19日(木)正午まで